

学校感染症について

以下の感染症と診断された場合は、発症日、受診日、登校許可日等を学校までお知らせください。
登校再開については、主治医の指示に従ってください。

【 学校感染症の種類と出席停止期間 】

(学校保健安全法施行規則第18条)

種類	感染症名	出席停止の期間の基準
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白随炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（病原体がMERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ	治癒するまで
第二種	インフルエンザ (特定鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザを除く)	発症後（発熱等の症状が出た日の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで（かさぶたになるまで）
	咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、咽頭炎、結膜炎等の主要症状が消退した後2日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した（解熱薬を使用せずに解熱し、かつ呼吸器症状が改善傾向にある）後1日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、 その他の感染症(第三種の感染症として扱う場合もある) 溶連菌感染症、感染症胃腸炎、マイコプラズマ感染症、手足口病、伝染性紅斑（りんご病）など	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで